

審議会等の会議の記録

会 議 の 名 称	平成27年度 第7回 自治基本条例推進会議
開 催 日 時	平成28年1月18日(水) 午前9時から午前11時
開 催 場 所	市役所榛原庁舎 4階会議室
出 席 者 氏 名	坂本会長、山本副会長、戸塚委員、櫻井委員、大石委員 山本直子委員、永田委員、澤島委員、佐藤委員
傍 聴 人 数	10人
会 議 の 議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・対話の場の検討結果の報告について ・自治基本条例推進会議の答申について
配 付 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1：対話の場の検討結果の報告 ・資料2：対話の場のまとめ 関連資料 ・資料3：自治基本条例推進会議の答申について
会 議 に お け る 議 事 の 経 過 及 び 発 言 の 要 旨	<p>(1) 対話の場の検討結果の報告 (2) 対話の場のまとめ 関連資料 (3) 自治基本条例推進会議の答申について</p> <p>※(1)～(3)は関連するため一括で審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話の場としてまとまった案を尊重する。 ・スピード感が大事、総論をやっているかもしれない。 ・具体的な施設名を決めて、答申の中に出して行く。反対意見が出てもいいのではないかと思う。 ・対話の場の結果と真摯に向き合うと、ある程度具体的な答申を出す必要があると思う。 ・施設分類や方向性のまとめり状況を考慮して、施設を示す。 ・学校も具体的に方向性が決まってくる。他をぼかしてそこだけ具体的にはできない。庁舎なども限定するべきと思う。 ・答申の際に意見を添えて、良い意味での縛りをつける。 ・分野毎に具体化される要件、条件を対話の場から吸い上げて示す方法も考えられる。 ・もっと個々の施設の状況やデータを知りたい。背景として説明できるデータを基にした議論を行う。 ・バックデータが多すぎると議論が進まない心配もある。 ・1つの市であるのに、2つの地域の線があることを対話の場でも気にしていた。それを乗り越えて公共施設マネジメントを進めていく。 ・固定資産台帳との連携による状況把握、企業会計方式での考え方などを盛り込む。 ・覚悟を決めて、進めることを前提に考える。 ・推進会議の考え方を答申の中で大胆に示してもいいと思う。